

「キリストが教会を愛し」エペソ5：24—25 堀田修一 20・8・23

I「教会がキリストに従う（まずキリストが命をかけて愛され、その愛に應えて喜んでキリストにお従いする）ように、妻も、すべてのことにおいて（間違っている事に従うのではない。助け手として、夫が間違っている時、尊敬を失わずに注意をし、主の喜ばれる道を歩めるように助ける）夫に従うべきです（夫を神により、かしら、リード、決断する者として、立てられた器として尊敬し立て、仕える）」：24。

II「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも、妻を（命を懸けて、自己犠牲の愛で）愛しなさい」：25。夫の妻に対する関係は、支配する関係ではなく、自己犠牲の愛の関係。まず先に、夫が妻を愛する。主がまず私達を愛されたように。

1.「愛しなさい」＝原語：アガパオーの現在命令形。＝愛し続けなさい。一時的、調子の良い時だけではなく。神と証人の前で聖なる誓いをしたように。誓いを思い起こす、忘れない（結婚記念日を大切に）。互いに→「あなたは神の教えに従って、夫（妻）としての分を果たし、常に妻（夫）を愛し、敬い、慰め、助けて変わることなく、その健康な時（愛し易い時）も、病の時（相手が重い病の時も、重い障害を持つ時）も、富める時（愛し易い時）も、貧しき時（不満が出易い時）も、命の日の限り、あなたの妻（夫）に対して堅く節操（相手への真実な愛、浮気をしない誠実。※夫婦のどちらかが、不貞、浮気、不倫をしたなら離婚が許される。マタイ5：32。それほど、相手を裏切る不倫の罪は重い。離婚を選ばず、主から愛をいただき、相手の罪を赦し、新しい歩みをする選択もある）を守る事を約束しますか」→「はい。神と証人との前で約束します」と言うのは簡単だが、「真実に守る」のは神の助けなしにはできないとの深い自覚が大切。キリスト者なら、心の中で、「この愛の誓いを生涯全う出来るように助けて下さい」と祈りつつ誓いをすべきである。人は、心変わりをする弱い者。絶えず神に拠り頼みたい。※証し：結婚の学び

2. 夫は、まず「キリストが教会（私達）を愛し、教会のためにご自分を献げられたように」、「神が与えて下さった」妻を、自分をささげて、心から命を懸けて愛する。自分の妻を→よその人、浮気ではなく、神が与えられた自分の妻を愛する。①妻との対話を大切にする。妻の言葉だけではなく、気持ちを受け止めるようにする。その為には、テレビやパソコンを消して。妻が夫に対して何をしてほしいか、真剣に聴く。夫も、自分の事情や願いを聞いてもらう。共に悔い改め、神に近づくようにリードする。そのプロセスを通して歩み寄れる点を見つける。②もし喧嘩をした時、仲直り、歩み寄りのリードをするのは夫の責任、リーダーシップ。神との和解の為に、先に、この地上に降りて来て下さったのはキリスト。「神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わせず、和解のことばを私たちに委ねられました」（IIコリント5：19）。夫は、頭であるキリストに倣う。教会（私達）が、さまざまな欠点があるのに、主は、教会、私達を愛して下さる。教会、私達は、罪を赦され、洗われ、聖められる必要がある。キリストは、私達、教会が、罪に満ちていたのに、それでも、愛された。救いの教理の極致がここにある。主は、私達のうちにある何かの故に、私達を愛されたのではなく、私達が欠点だらけで「罪人であったとき」、私達を愛して下さった。高慢で不敬虔で、神に敵対していた時に、愛して下さった。汚れていた私達を愛して下さった。夫も妻も、相手と共に生活する時、相手の欠点、改善に困難な点、難しい種々の事柄に直面する。結婚は、お互いの自我がぶつかる所でもある。神に訓練される場でもある。しかし、夫は、「キリストが教会（私達）を愛し、教会（私達）のためにご自分を献げられたように」、主からいつも愛をいただいて、難しい時も、妻を愛する人は幸いである。妻も、難しい時に、主から愛をいただいて夫を愛する。※証し：私と妻の間に主がおられる恵みのおかげで、今日がある。

3. アガパオー、アガペーの愛。①人間のエロースの愛（求める愛）、②フィレオー（好き、愛情）の愛、恋愛（一時的な感情）より大きく、③変わらない深い神の愛、アガペーの愛（与える愛、変わらない意志）をいただいて結婚生活を築いて行く。相手がしてくれたらではなく、こちらから先に喜んで犠牲を払う真実な愛。神からいただくこのアガペーの愛は、私たちの間の愛を高める。恋愛の気持ちが冷えると消える愛ではなく、御霊によって新しくされた意志で愛する愛。だから→18節の「御霊に満たされなさい」が、結婚の前に、土台としてある。キリスト者が互いに愛し合い仕え合う愛は、主からいただくアガペーの愛、御霊の実である愛。権利のみを主張せず、みことばを相手に当てはめず、むしろ、自分が、愛を持って自分の責任を果たす。愛を示す。

Ⅲ キリストの素晴らしさ・キリストと教会の深い関係を現わす夫と妻の関係の本質。これはすべての人間関係に適用できる。結婚している方も、独身の方も、伴侶を先に天に送られた方も、すべての人間関係に適用できる大切なみことば。「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた」：25。キリストは教会の花婿、教会はキリストの花嫁。

1. 「キリストが教会を愛し」。主にとって教会は尊い存在、花嫁。教会（私達）は、さまざまな欠点があるのに、主は教会を愛して下さる。主は教会の罪をきよめられる。主は、教会がぼろを着て罪の放縦な歩みをしているのを見られたのに、それでも愛された。私達が不敬虔で、罪人で、敵対していた時に（「実にキリストは、…不敬虔な者たち（私達）のために死んでくださいました。…私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいた」ローマ5：6－10）、主は愛して下さった。主が教会、私達を愛されたのは、教会が立派だったからでも汚れがなく美しかったからでもない。罪で汚れきっていた私達への主の愛。感謝します。

2. 「教会（私達）のためにご自身をささげられた」：25。感謝！「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです」（ヨハネ10：18）。主は、教会、私達を愛し、教会（私達）の為に自分から命を捨てて下さった。思っているだけではなく、語り、行動し、現わして下さった愛。相手（私達）が変わるのを待ち、相手（私達）の出方を伺うのではなく、自分から犠牲を払われた愛。私達も、この主の愛をいただき、相手が変わるのを待つのではなく、まず自分から愛を実践できますように！

3. 「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます」（ヨハネ10：10、11）。主は、ご自身の権利や特権を考えずに、私達の大きな必要、つまり救いの必要を考えて下さった。主は、へりくだって、ご自身の権利と特権を捨て、しもべのかたちを取って命を捨てられた（私達なら？）。しかも十字架で死なれた。私達の身代わりに死なれた。私達を地獄から救うだけではなく、私達に命を豊かに与えられる恵み！

Ⅳ キリストの深い愛への教会（私達）の応答

聖書を愛もなく人を責める為に用いても決して良い結果は出ない。私達を命をかけて愛しておられる主を私達も愛し、みことばを相手に責める為に用いないで、まず自分が、罪深い時に主が愛されたように、まず、へりくだり、主から愛をいただいて、自分が変えられて、難しい人も愛せるように祈りたい！